

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4590100097
法人名	有限会社 大塚台夕月
事業所名	グループホーム 野の花
所在地	宮崎市大塚台西3丁目23番地2 (電話) 0985-47-2280
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年11月29日

【情報提供票より】(19年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年1月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	1 名
年齢 平均	85 歳	最低 68 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおつか生協クリニック 社会保険病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市西部の大型住宅団地の閑静な住宅街にホームは立地し、近くには公園や保育園、安全な散歩道があり恵まれた環境の中にある。開設して間もないホームであるが、利用者は明るく思いやりのある職員に支えられ、敬老会への参加や学童の慰問、ボランティアの訪問等を受け、地域の一人として安心して穏やかに暮らしている。又、自治会長をはじめ地域住民が協力的で運営推進会議も軌道にのっており、サービス向上に活かされている。利用者全員が比較的元気で職員とともに明るく幸せに生きいきと居心地よく暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成19年1月の開設で今回初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は、管理者で自己評価に取り組んだ。次回は、評価のねらいや活用方法を全員が理解し、全員で取り組みサービスの向上に活かしてほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームの活動内容の報告や意見交換を行っている。自治会長をはじめ参加者が協力的で実りのある会議となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態をきめ細かに報告し、家族との信頼関係を保てるように常に話しかけ、意見や苦情を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、敬老会や地域の防災訓練、学童の慰問、ボランティアの受け入れ等地域との交流を積極的に行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境のなかで、地域住民と交流しながら暮らし続けていく」の理念を職員全員で話し合いつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開催されるミーティングで理念について話し合い、その実現に向けて職員全員で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、敬老会や地域の防災訓練、学童の慰問、ボランティアの受け入れ等地域との交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての自己評価の実施で、管理者が中心になって作成している。評価の意義とねらいや活用方法について職員の理解がまだ充分とはいえない。	○	評価のねらいや活用方法を全職員が理解し、自己評価を全職員で取り組み、サービスの質の向上に取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームの活動内容の報告や参加者との意見交換も行っている。自治会長をはじめ参加者が協力的で内容のある会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターが主催する研修会に参加したり、ホームの課題についての相談や現況報告等交流を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態をきめ細かに報告している。	○	金銭出納簿は作成されているが、さらに明確にするため、出納簿に家族のサイン、捺印等確認を受けてほしい。又、家族との交流を深めるために、定期的なホーム便りの発行を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に信頼関係が保てるように常に話しかけ、意見や苦情を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。又、家族の意見等は申し送りノートにその都度記録し確認している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設してまだ間もなく、現在職員の異動はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設して間もい関係もあり、事業所としての年間研修計画や職場内でのトレーニング、段階に応じた研修が実施されていない。	○	職員の質の確保、向上には職場内外の研修が不可欠であり、事業所として年間研修計画を立て、人材育成に取り組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域内のグループホーム連絡協議が主催する研修等には積極的に参加して、同業者との交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人や家族から見学してもらったり、体験入居で様子を見る等、安心してサービスを受けることが出来るよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に家事をしたりゲームを楽しんだりして、お互い信頼関係を築き、共に支えあう関係づくりに努めている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情から、利用者の暮らし方の希望や意向の把握に努め、自分のペースで自由に暮らせるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者はアセスメントに基づき個々の情報を収集して、利用者や家族と相談しながら、利用者主体の介護計画を作成している。	○	チームでつくる利用者本位の介護計画作成が求められており、職員全員がアイデアを出しあい、意見交換をして介護計画に反映してほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は実施期間を明示して、その期間が終了する前に見直しを行っている。	○	介護計画の見直しは、新鮮な目で少なくとも月に1回の評価と3ヶ月に1回の見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の取り組みや通院支援、訪問看護支援等グループホームの多機能を生かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の協力病院をほとんどの利用者がかかりつけ医としており、いつでも医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に本人や家族と十分話し合い、関係者全体の方針の統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応がないように細心の配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を主体にその日の体調に配慮しながら、自由に自分のペースで希望にそって暮らせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや希望を出来るだけとりいれ、食卓を囲んで、利用者と職員と一緒に同じ食事を楽しんでいる。又、さりげない介助にも職員の優しさを感じられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、入浴が楽しめるように支援している。又、入浴を拒む人には言葉かけや対応を工夫して、一日おきに入浴が出来るように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除、テーブル拭き、園芸、犬の世話等、利用者一人ひとりが楽しみ事を見いだせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームから公園に通じる安全で環境の良好な小道があり、天気の良い日には散歩したり、運動公園や隣の芝桜を見に行くなどして気分転換をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者や家族に心理的負担をかけないように配慮し、日中は玄関の鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会が実施する地域の防災訓練には参加しているが、ホーム内の避難訓練は実施していない。	○	非常災害時の対応については、職員だけの対応では限界があるので、避難訓練にも地域の人々の参加を呼びかけ、協力を働きかけてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好や栄養摂取量、水分量を把握しており、バランスの良い献立となっている。	○	1日の栄養摂取量や水分量は大まかに把握しているが、栄養の専門的な観点から、管理栄養士のチェックをお願いしたらどうだろうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、静かで落ち着きのある家庭的な空間となっており、室内には季節の花や木の実等がテーブルに飾られ、利用者は居心地よく安心して暮らせるように工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族の写真、好みの物が持ち込まれ、居心地よく安心して暮らせるように工夫がされている。		